

第3回徳島市新ホール整備検討会議 議事録（要旨）

日 時：平成30年10月29日（月） 午後6時～午後8時30分

場 所：ホテル千秋閣 7階 鶴の間

出席者：19名（委員7名、講師、事務局ほか）

傍聴者：3名

1 開会

2 講演

「劇場、音楽堂等の整備について」

講師 兵庫県立芸術文化センター副館長 藤村 順一氏

(1) 兵庫県立芸術文化センターと徳島市の関わり

- ① 兵庫県立芸術文化センターソフト先行事業ひょうごインビテーションナル ハンガリー国立バレエアカデミー（平成13年7月 徳島市立文化センター）
- ② 兵庫芸術文化センター管弦楽団10周年記念 佐渡裕指揮 ベートーヴェン「第九」
兵庫芸術文化センター管弦楽団（平成27年12月 アスティとくしま）

(2) 兵庫県立芸術文化センター施設概要

(3) 兵庫県立芸術文化センター利用状況

(4) 事業展開の特色

(5) 徳島市新ホール整備あたって（パワーポイント）

- ① 市民にとってのホールの優先度
 - 設置目的と連動 → 機能・設備
舞台芸術（中心は音楽か演劇か 残響設定等）
 - 市民ニーズ（将来を見据えて）
活動発表か鑑賞機会重視か それで規模・構成検討
 - 各種団体の大会利用は
- ※兵庫県立芸術文化センターは、舞台芸術専門『多機能』劇場（専用ではない）
オペラ・バレエ・オーケストラ・演劇・ミュージカル・古典芸能など
多彩で豊富なメニュー（選ぶ楽しみ）
- ② 興業利用と市民利用のバランス（考え方）
 - 運営方針と連動

市民文化振興とは…資源有限・バランス

- ・ 市民利用重視：わかりやすい（納税者）
活動発表“する”のひのき舞台（場の設定）→ 元気
大きな機構・設備・規模がなくても
- ・ 興行利用：鑑賞機会“みる”貸館興行ニーズがどれくらいあるのか

○ 自主主催舞台芸術公演（リスク負担）

多種多様な文化（価値観）にふれる…創造・想像力、刺激 → 活力
劇場は創るところ
何を創るか（例えば市民オペラ・オーケストラ・演劇か招聘ものか）
将来世代への視線

○ 劇場への期待（役割）は年間活動総体（事業単体ではなく）“ささえる”

- ※兵庫県立芸術文化センター：主催公演主体年間391本（ホール利用の80%）
— 県民利用の枠組（優先利用制度）
わくわくオーケストラ教室（県内中学1年生5万人全員劇場・楽団体験）

③ 兵庫県立芸術文化センター見直しの経緯— 震災前計画からの見直し整備
舞台芸術劇場としての機能重視（特化）— 人々の元気と街の賑わいの素
震災から10年—平成17年開館

○ 佐渡芸術監督（就任H14.4）+ 専門家配置（舞台技術部長功外：H10.10）

- ・ 活躍できる施設機能（財源）確保
ステージの広さ（大ホール4面・切穴）
音響照明設備（中ホール：組立床 etc…）
- ・ 移動舞台機構（維持費かさむ）や周辺機能をそぎ落とす（ほしいものもあったが）
- ・ 大2000席（オペラ・バレエ・オーケストラ）、中800席（演劇・ミュージカル）、
小400席（リサイタル）規模確保

○ 震災復興の中…450億円規模 県民OK（アンケート）→200億に圧縮して具体化
当初劇場・ホテル・アメニティ三者一体計画（街区）

（このとき劇場高層階：客席折り返しES、搬入出EV、四面舞台機構）
→震災後に単独プロジェクト（平面計画：効率面でよかった）
※優しさ暖かさ開放交流感（素材）

○ 西日本住みたい街No.1のリーディングプロジェクト（地域協働）

④ 維持管理費などランニングコスト軽減工夫

デザイン（見た目）よりも機能性・効率的動線重視
市民に愛され親しまれることで‘ランドマーク’になる

- 所用額計上（枠組）何を生み出すか基準（ノルマ）を数値化
→ +は管理運営者の責任/税金は市民の投資
何倍にもして返す（説明責任）

- 兵庫県立芸術文化センター：長期収支フレーム → 現場主義（権限と責任）
環境設計（H14 着工）：太陽光発電・屋上緑化・雨水利用
※東日本大震災前の設計（H11）
- 経営主体の重要性（ソフト・ハード一体）：設計段階から参画

3 第2回検討会議意見概要について

事務局

資料1 ページ 資料1 第2回徳島市新ホール整備検討会議意見概要 報告

4 議事

(1) 文化センター敷地での整備可能性について2

会長

A委員から、スタッフ側から見た使い勝手のいいホールの事例紹介があった。
この後の議論の参考のため、事務局から説明をお願いします。

事務局

施設事例紹介

- ・ふくやま芸術文化ホール（リーデンローズ）
- ・アステールプラザ

A委員

舞台スタッフに近隣のホールについて、ふくやま芸術文化センター（リーデンローズ）、広島のアステールプラザを推薦してもらった。

これらのホールは舞台の広さが十分にあり、搬入がしやすい。また電動バトンと手動バトンの両方があり、双方のバランスがよい。また舞台バトンの並びが良く吊り変えの必要がないので、オペラ演劇の際にスタッフに必要な時間も削減でき、会場効率が良くなるなどのご意見をいただいた。

また、電動バトンもピッチコントロールがあり、そういった部分もしっかりしている。

リーデンローズは舞台も大きく、何をするにも問題がない舞台。徳島にとっては大きすぎるが、そのホールの利点を、少し小さいホールに反映できればいいと思う。またアステールプラザには親子室があり、親子や子ども連れが観劇できる。

スタッフの総評としては、スタッフは困らなくて済む設備が整っているとのことだった。

事務局

資料2 ページ 資料2 新ホール整備にかかる検討項目 説明

会長

第2回検討会議で、事務局から図面を示してもらったが、あくまで敷地に入るかどうかの検討のための仮の設計であり、実際には要求水準書で示していくこととなる。

前回からホールを1200席にするか1500席にするか、またリハーサル室をどのような仕様にするかを議論していたがどうか。

B委員

会議室を3階に配置する時（計画案1）としない時（計画案2）の案で、同じ1,200席だったが、ホール全体の配置はどのように変わるのか。

事務局

基本的な配置は同じで、地下の活動室の有無の違いである。

会議室を3階に設けるのが計画案1。計画案2の場合は3階部分の空間がないので、その分地下に活動室を配置している。

会長

リハーサル室の空間は、地上階の配置や地下部分の配置といろいろ検討している。諸室の収め方は、実際には設計者が検討していく。

A委員

例えばリハーサル室を、地上と地下の両方に整備し、地下のリハーサル室はパネルで区切れるようにして、活動室のように使うような仕様にすることもできるのか。

事務局

構造計算もあるが、活動室を広く使うために地下に配置して、音をできるだけ離す考え方、広さよりも高さが欲しいのであれば地上階に配置する、また、楽屋を兼ねられるような考え方もある。ご意見をいただければ、可能かどうか案を検討したい。

会長

余裕のある部分については検討ができる。ただし、平面の面積は限られているので、1階に置けるものの上限は決まっている。その中で何を選択するかどうか。一番大きなものはリハーサル室の広さ。奥行きがあったほうがいいのであれば、地下に持っていかざるを得ないだろう。

リハーサル室については、天井の高さも意見が出ていた。天井の高いものを地下に配置すれば、その分地下を掘らなければならないので経費もかかる。

B委員

リハーサル室の奥行きは広いほどいい。

A委員

リハーサル室の奥行きがないと、本番通りの練習ができず、「本番の舞台はもっと広いので、実際はもうちょっと奥まで動きましょう。」という練習しかできない。

C委員

リハーサル室は、大ホールに合わせてきちっとしたものを造らねばならない。それを活動室や会議室、楽屋と兼用するのはどうかと思う。小ホールも必要であれば、きちっとした小ホールを持つということ。

市の文化振興ビジョンがあり、それを達成するために「ホールがどういう役割を担うのか」ということを考えてきた。

また、大抵は1施設に2つはホールが備えられている。ホールの使命が広場だとすれば、多種多様な催しに対応できる大ホールと小ホールがあるべきだと思う。

兵庫県立芸術文化センターのお話では、事業をどう展開していくかの事業展開のコンセプトと、施設運営のコンセプトがあり、そういうことを押さえて考えていかねばならない。

部屋があれば活動室にも会議室にも使えると、最初から考えるものではない。当初から「大ホール1500席、大ホールに付随するリハーサル室が必要。また、創造支援として小ホールや活動室や会議室が必要。」という話がされてきた。それが今検討しているホールに収まらないのなら、その土地自体が不適合だと思う。そのことが議論されないままに、1200席のホールとなってしまってもいいのか。

B委員

話がふりだしに戻っていいのか。私は、ホールが無い状態が続くことのほうが良くないと思う。

C委員

今後子どもたちや若者の将来を考えたら、今申し上げたものは整えるべきだと思う。

B委員

本来は、兵庫県立芸術文化センターのようなホールがあるといいが、それには県と市が協力してやっていかなければできない。まずは1200席のホールを市が整備し、それに続いて整えていくことを考えたほうが、現実的かつ良いホールができるのではないか。この場所に大ホールと小ホール、リハーサル室などをつくったら、結局はどちらも中途半端になる。

D委員

第1回の検討会議で「文化センターの敷地で建設するのか」と質問した。市の回答

は「そうだ」とのことだったので、今までの計画を崩していくのだと受け止めていた。

文化センターの敷地に建設するのであれば、1200席のホールしか建てられないのではないかと。近隣施設との連携を図るという意見も出されていたので、私もその方向性に進んで行くのかと思っていた。

E 委員

文化センターの敷地は制限があり、自ずと建築の面積が決まる。1500席があればいいと思うが、いくら理想を言っても限られている。

また市の財政的な事情もある。理想は理想だが、現実はどこで合わせるかを妥協せざるをえない。お金は頑張って積み上げようもあるが、面積はどうしようもない。「県と市が協調して」といっても早急には不可能である。

一番優先されるべきは大ホール。1200席が限界であれば、それを選択するしかない。1500席だとリハーサル室が確保できないのならば、大ホールにリハーサル室は必須なので、整備できないということはありえない。あとは会議室や楽屋、活動室など、どの機能を兼ねていくかという検討をしていくしかない。

事務局

平成29年度に「旧動物園跡地」「駅西」「文化センター敷地」の3か所を候補に検討を行った。その結果、駅西への建設を検討していたが見直すこととなり、残る2か所から、文化センター敷地と旧動物園跡地を比較検討した。旧動物園跡地の一番の課題は、都市計画の変更が必要なことであり、それはすぐに変更ができない。また、周辺交通環境の整備についても関係機関等との協議が必要になるため、それにも時間がかかる。また、どの程度の検討期間が必要なのかも見通しは立てづらい。

一方で、文化センターが閉館して以降、3年あまりが経ち、市民に不便が生じている。将来の子ども達のことも考え、可能な限り早くホールを建設することが重要と考えた。

これらの状況を鑑み、文化センター敷地で、できるだけ早くホールを開館させる方法を検討するという方向性をご理解いただきたい。

F 委員

そういう前提だとして、市が示した計画案の中には、1500席という案もあったがリハーサル室がホールと同一フロアに配置できないとのことだった。前回の会議で、リハーサル室はホールと同一フロアであることが望ましいと意見が出されていたが、本当に1500席を整備してリハーサル室を地下やホールの上に持っていくことは駄目なのか。

事務局

前回、計画案4で1500席と活動室を整備する案を示した。1500席のホール

を収めようとするれば、地上部分がホールになり、リハーサル室は地下に持っていかざるを得ない。1500席のホールと、リハーサル室が同一平面になければならないとなると難しいところである。

工期は2023年度中の完成を想定している。これまでの検討内容を全て反映した計画案（資料14ページ）での1500席になると、工期完了は2024年度になる想定で期間が長くなる。また、建設工事費についても100億を超えてしまう。

会長

議論が市の設計案に引っ張られすぎている。この図面の具体を指摘するのではなく、「それでは駄目だ」というご意見をいただければ。

F委員

できるだけ早く建設したいということでも、1200席と1500席で工期が1年しか変わらないのであれば、「1年でも早く建設する」ということが最優先されなくてもよいという意見もあると思う。1年待つことで1500席ができるというのであれば、待つという市民もいるのではないか。

B委員

リハーサル室については、できる限り舞台と同一平面のほうがよい、できないのなら仕方ないが。

会長

せっかくご出席いただいているので、藤村氏にもお考えをお聞かせいただければと思う。1200席と1500席とを検討をしているが、その席数をどうお考えか。

藤村氏

兵庫県立芸術文化センターも最初は、大ホールはオペラ上演時の音響を考慮して、1800席規模から検討が始まった。

だが、オーケストラなど多彩な演目を上演することや興行面を考えると、2000席でないと収支が成り立ちにくいのではないかとということがあった。しかし、2000席を埋めるということは、ものすごく大変なことである。

市民の活動もそれぞれ参加者数が異なると思うが、その最大数を取ってしまうと大変なことになる。兵庫県立芸術文化センターは、大ホールを2001席としてオペラ・オーケストラ・バレエを上演しているが、オーケストラピット部分を客席転換することで、最大2141席になる。チケット完売・満席にすれば、2000席もプラス141席もメリットであるが、それは劇場経営成功の結果であって、当時は心配だった。

やはり何をメインにしていくかということが一番で、ホールが1つで例えば演劇をメインにするならばせりふが大切なので1200席では大きすぎる。

会長

興行で使うという想定と、市民が使うという想定があり、1800席と1200席という案があり、いまはその中間の1500席になっている。1500席だと興行も打てず、採算も取れないのではないかと思う。だが、最近では1500席のホールも増えてきた。

藤村氏

ソフトに使う資金をどうするかもあるが、どのくらいのを市民に観てもらうか。例えば、兵庫県立芸術文化センター大ホールは関西の大学・アマチュアオーケストラや吹奏楽等の檜舞台になっている。

なぜかと言うと、使いやすいハード・ソフト（スタッフ）と、世界トップ級のあこがれのウィーンフィルやベルリン・フィル、ロイヤル・オペラなどが上演されているステージだから。

それを徳島のホールで考えると、オーナーである市の予算や継続的なスポンサーの協賛があるのならばいいが、そうでなければ、高額入場料であっても収支が合わない。どのようにしてどのような公演を市民に観てもらうか。そして、市民の活動の規模・頻度、そこを詰めないとならないと思う。

会長

そういったスポンサーを集めて行うような公演は、年に1回もやればいいのかということになるのだと思う。それならば1500席と1200席の差はなくても、「その300席分をどう集めるか」という議論になるのではないかと、自分の感覚的には思っている。1500席にして年数回でも開ければいいが、そうはならないのではないかと思う。

C委員

兵庫県立芸術文化センターの話聞いて、やはりそこにいるスタッフが、実際に計画を立ててやっている。それが館の特色にもなっている。そういうことを考えていくことが大事だと思う。徳島市内というのは南に行くにも北に行くにも徳島市を通る。やはりそういうことに取り組んでいくのが徳島市の使命ではないか。この状態ではわくわく感や夢がない。

藤村氏

兵庫県立芸術文化センターの職員は、オーケストラの事務局も含めて60人。県の定数（人件費）は50人であるが、事業を充実し施設稼働を高めていくのに合わせて、自前の収入を財源に経営判断で増やしていった。やるべき基準というか、最低限のノルマを決めてそこから発展を考えていく。

結局、「何をするか」「一番はなにか」ということを考えていくこと。例えば、リハー

サル室にしても、同一フロアにあることは大事だが、どうしても配置できないならば、主舞台と同じ広さを確保することのほうが優先だと思う。そして搬入・搬出の効率性は施設管理運営のベース。

C委員

いまアートマネジメントが発達してきている。自主活動は厳しいがやりがいがある。そこが県民も含めわくわく感を創出していくことが報告されている。やはりそれが大事なのではないかと思う。

E委員

建設する場所を決めないことには前に進めない。

会長

建設場所は文化センター敷地として検討している。
話がずれたが、それ以外の項目についても伺いたい。

E委員

今日は、1200席と1500席の議論が出た。例えば、1500席にすると搬入トラックが敷地内を後退でしか入っていけないことになるなら、使い勝手が悪すぎる。リハーサル室が地下にできることも制限がある。

会長

また、鑑賞の自主事業を行っていくことを前提に考えているが、事業の規模と予算との兼ね合いもあるので、あまり回数は取れないと思う。ただしスタッフはきちんと雇用し、できる限り小規模でもいいからやっていく。そのときに小ホールや中ホールがあったほうが展開しやすいという議論もあった。年に数回しかない大ホールの公演よりも小規模な公演を数多く行ったほうが人は育つかも说不定。

C委員

それはそうだと思う。しかし、年に何回の大ホール公演しかないというのは違うと思う。企画の立て方の問題。

A委員

検討会議の最初のときに「主催公演を考えつつも、市民の発表の場としてのホール」という位置づけで始まっていると記憶している。

会長

市民利用の需要はあるので、それだけで相当な日数が埋まる。実際には興行で利用

できる日数も制限されるだろう。

市民利用に加え、鑑賞公演をどれだけ実施できるか。また市民交流の場になるかということ。1200席、1500席の議論があるが、逆に1800席や2000席のホールになれば、鑑賞公演をやらざるを得ないという感じになる。しかし、1500席ではかえって中途半端になってしまうのではないか。

F 委員

ポップスも含め、有名アーティストが利用するには、最低1500席程度ないと使われないという話があるが、あるがそこはどうなのか。そうだとしたら、1500席には意味があると思う。

E 委員

ポップスではそうかもしれないが、クラシックはそうではない。過去には音楽も色々と招聘公演を行っていたが、1280席（※固定席1151席＋補助席129席）の文化センターが埋まらないというのが現状である。観る人を増やしていくのも役割だと思っているが、悲しいことではある。

C 委員

それも考えないといけない。例え1200席になるとしても、徳島の人は来ないと決めるのではなく、ホールに来てもらうための方策として若い人や子どもたちにアウトリーチなどを地道に行い、できるだけ多くの人に来てもらうこと。そして子どもたちが本当に感動できるような、そういったわくわく感があるビジョンを考えるべきだと思う。

F 委員

私も個人的に兵庫県立芸術文化センターに行っているが、観客としてとても心地がいいホールだと思っている。色々理由があると思うが、やはり木を内装に使うことも大きいと思う。新ホールも観客として心地いい空間をつくることは重要だと思う。また、兵庫県立芸術文化センターはトイレにも気を遣っている。

木を使うとコストがかかるという意見もあるが、心地よい空間を造っていくことは重要と思う。兵庫県立芸術文化センターはどのようにお考えだったのか。

藤村氏

トイレはスムーズに気持ち良くということで、とてもこだわった点である。今はトイレの数を多くしているホールはあると思うが、兵庫県立芸術文化センターは、女性トイレ数日本一と言われるほど最初から多くつくっていた。

だが、結局は人だと思っている。気持ち良く市民に過ごしてもらい、活動してもらおうというスタッフのホスピタリティがある。佐渡芸術監督が、「芸術監督も掃除・警備のスタ

ップも同じマインド」と評するチームができた。

兵庫県立芸術文化センターは、ロビー・ホワイエに人があふれ狭い感じだが、上演機能優先で検討し、今の大きさになった。情報コーナーも欲しかったが実現できなかった。結局は優先度が高いものは何かということ。「こういった活動をしていくからこうした。このように使えばニーズに応えられる。」ということが重要。

内装については、震災の後ということもあり、優しさ、暖かさを感じる場所にしたいだったので、それにはやはり木だと思った。エントランスのガラスは開放感がある。また躯体の柱はつくったあとに、もう一度叩くことで手作り感を出している。レンガも手積みでつくられている。知事の「環境重視の劇場に」という方針で、平成14年着工に向けた設計段階で太陽光発電、屋上緑化、雨水利用を取り入れている。

C委員

兵庫県立芸術文化センターは、開館に先駆けてソフト事業を行っている。それにはどのような効果があるのか。

藤村氏

ソフト先行事業を展開しながら、劇場の価値、経営のしくみなど、色々な人と関わりながら学んでいった。

まず、自主企画制作の意義、プロの劇場として芸術家、専門家に一括して任せるということ、そのため単年度会計の弱点を補い、長期計画を可能にする仕組みを作るためにも、先行事業の取り組みには意味があった。実際の効果はその時は見えなかったかもしれないが、非常に重要で、阪神淡路大震災を乗り越えるプロジェクト推進のベースになる効果的なことだった。

会長

先行事業を行っていくことは非常に大事なこと。最近では、開館の直前に指定管理者を決めることが普通となっているが、本当は施設の設置条例を先につくって、開館の前に指定管理者を決めていないと、開館前から事業をやってノウハウをつけていくということができない。本当は設計段階から運営主体が見える仕組みを作りたい。

藤村氏

運営がうまくいっているホールは、経営主体を早めに決めている。さらに兵庫県立芸術文化センターでは、ソフトのわかる舞台技術の責任者・スタッフを決めて一緒に設計している。この効果は広く理解されるようになった。

会長

設計段階で、実際に運営を行う技術者に細かな部分を指摘してもらえるのは大きく違う。今後そういったことをどうやって実現させていくか。

藤村氏

公募で募集した指定管理者の中には、期待に応えられない質の低い者もいることは、ホール施設に関わる者の中では共通認識となってきた。指定管理料の多寡でしか判断せず、結局は疲弊していく。そうなれば、結局は税金の無駄使いではないか。徳島市はこれからつくられるホールなので、ぜひそこも含め検討していただきたい。

会長

終わりの時間に近くなってきたが、前回の資料に掲載されていた、近年整備されたホールについて情報提供をお願いします。

事務局（アドバイザー）

東広島芸術文化ホール（くらら）、太田市民会館、豊中市立芸術文化センターについて説明

会長

敷地条件等は違うが、こういったホールを参考に建設費が想定されている。

我々は設計ができるわけではないので、要求水準書の書き方を工夫して示していくことになる。2023年度の開館に向けたスケジュールになっているので、協力をいただきたい。

藤村氏

今日はありがとうございました。ぜひ、兵庫県立芸術文化センターにも一度お越しいただいて現地視察をしていただければと思う。私が劇場の何が好きかという、わくわくした様子で来館しているお客様を見ていること。ぜひ、その様子を見に来ていただきたい。

(2) その他

なし

会長

会議の進行を事務局へお返しする。

5 閉会

事務局

以上で「第3回徳島市新ホール整備検討会議」を終了する。

以上